

哲學研究

第四十二卷 第一冊

第四百八十三號

昭和三十七年十一月一日發行

生の存在學か死の辯證法か……………田邊元

エイコース・ロゴス……………森進一

書評

西谷啓治博士著

『宗教とは何か』を讀みて……………阿部正雄

史學研究会

京都大學文學部内
京都哲學會

京都哲學會規約

- 一、本會は廣義における哲學の研究とその普及を圖ることを目的とする
- 一、右の目的のために左の事業を行う
- (一) 毎月一回會誌「哲學研究」を發行する
- (二) 毎年公開講演會を開く
- (三) 隨時研究會を開く
- 一、本會の事業を遂行するために委員若干名をおく
- 委員は京都大學文學部哲學科教官及び委員會において推薦したものに委囑する
- 一、本會に賛助員若干名をおく 賛助員は會員の中から委員會が推薦する
- 一、本會は會員組織とし會員には資格の制限を設けない 學校・圖書館・其他の團體は團體の名を以て入會することができる
- 一、會員は會費として年一、五〇〇圓(會誌十二冊分を含む)を前納する
- 但し 二回又は三回に分納することもできる
- 一、會員は會誌の配布を受け會誌に豫告する諸種の行事に出席することができる
- 一、本會は事務所を京都大學文學部内におく
- 一、規約の改正は委員會の決定による

京都哲學會役員

委員

湯本	武水	松尾	服部	蓮實	野田	西谷	長尾	常俊	棚瀬	田中	武内	高田	園原	島澤	重山	梶崎	柿井	大白	上野	井野	石田	池田	
淺吉	藤垣	尾田	正重	重又	啓雅	谷尾	尾宗	俊宗	美宗	中内	内田	高田	園原	島澤	重山	梶崎	柿井	大白	上野	井野	石田	池田	
幸良	一	義正	重又	啓雅	三	谷尾	尾宗	俊宗	美宗	中内	内田	高田	園原	島澤	重山	梶崎	柿井	大白	上野	井野	石田	池田	
孫治	雄	涉海	明康	夫治	人郎	爾郎	爾郎	範郎	郎	郎	夫郎	一	一	頭	尚夫	勉	仁	祐					

とが、ここにおいても極めて重要な問題概念として導入せられ、それらがそれぞれ如何なる形で「空」の立場へ克服されるかが究明されなければならないのではなからうか。

以上本書の論述に関して筆者に残された二つの疑問点をのべた。なおこの外、空の立場における存在と当為の問題（これは空の立場そのものの理解にかかわる最も本質的な問題である）について並びに空の立場における歴史性について、筆者の感ずる疑問をものべ、併せて著者の御教示を仰ぎたい所存であったが、既にかんがりの紙数をついやしたので、後の二点については別の機会に譲り度いと思う。ただ筆者の未熟と浅学のためこの劃期的な業績の真意を十分理解せず、以上の考察においても思わぬ誤解を敢てし妄評の誤りを犯しているのではないかをおそれるものである。著者並びに読者諸賢の叱正をうれば幸いである。

——一九六二年六月十日——
 (筆者 奈良学芸大学〔宗教学〕教授)

前 号 目 次

聖アウグスチヌスの認識説……………	高 橋 亘
実存者の対話と沈黙……………	酒 井 修
デカルトの自然学……………	神野 慧 一 郎
彙 報	
第四十一巻総目次	

次 号 論 文 予 告

Abduction……………	山 内 得 立
——意味の研究其の四——	
ロックの政治思想……………	塚 崎 智
文芸作品の構造に関する一考察…北村ひろ子	
——主として重層性と統一性について——	

會 告

一、本會は會員組織とし會員には資格の制限を設けません、入會希望の方は京都市左京區吉田京都大學文學部内京都哲學會(振替口座東京四〇三九番 京都哲學會)宛に規定の會費(年一、五〇〇圓又は半年七五〇圓)をお拂込下さい

又會員への會誌送付、バックナンバー購入、及び發賣に關する一切は東京都千代田區代官町二 創文社(振替口座東京九二四七二番創文社)宛に願います

一、會費切れの場合は封筒に「前金切」の印を捺しますから直ちに京都哲學會宛御拂込下さい、(一年分又は半年分、會費は原則として本誌十二冊(又は六冊)の送附濟を以て前金切れとし、會費の變更其他の事情による過不足は一年(又は半年)毎に精算します

一、會員の轉居人退會の事務及び編集事務の一切は京都哲學會宛に御通知下さい

一、本誌の編集に關する通信・新刊書・寄贈雜誌等は本會宛にお送り下さい

京 都 哲 學 會

京都市左京區吉田
京都大學文學部内

昭和三十七年十月三十日印刷
昭和三十七年十一月一日發行

編 集 人 京 都 哲 學 會

京 都 大 學 文 學 部 内
編 集 代 表

常 俊 宗 三 郎

發 行 人 久 保 井 理 津 男

京 都 都 千 代 田 區 代 官 町 二

印 刷 人 堀 内 文 治 郎

堀 内 文 治 郎

印 刷 所 堀 内 印 刷 所

東 京 都 神 田 三 崎 町 二 一 六

發 行 所 創 文 社

株 式 會 社

東 京 都 千 代 田 區 代 官 町 二

振 替 口 座 東 京 九 二 四 七 二 番

電 話 丸 ノ 内 割 四 〇 〇 八 番

註 文 規 定

一、會員以外の購讀者の御註文及び廣告掲載に關する件は「創文社」へ御申込下さい

一、本誌の御註文はすべて代金送料共(一部、定價一五〇圓、送料・四〇圓)前金にてお送り下さい

THE JOURNAL
OF
PHILOSOPHICAL STUDIES
THE TETSUGAKU KENKYU

Vol. XLII

November, 1962

No. 1

Lebensontologie oder Todesdialektik.....Hazime Tanabe

Eikos Logos.....Shinichi Mori

On Reading Dr. K. Nishitani's Book

"*What is Religion?*"Masao Abe

Published Monthly

By

THE KYOTO PHILOSOPHICAL SOCIETY

(The Kyoto Tetsugaku-Kai)

Kyoto University

Kyoto, Japan

特
價
二
〇
〇
圓

IMB 6427

昭和
三十七
年十一
月三十
日印刷
(每月
一回)